
そして僕は105円を握りしめてここで立っているわけだが

パンター

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして僕は105円を握りしめてここで立っているわけだが

【Nコード】

N4411U

【作者名】

パンター

【あらすじ】

コンビニに円盤が停まっている！
なぜみんな驚かないんだ。

(前書き)

アダムスキー円盤にワクワクした頃が懐かしい。

コンビニの前である。

電車の乗り換えに20分近くあったため、駅を出てコンビニで小腹を満たすため唐揚げ串を買おうと思っている。

で、105円を財布から取り出したわけであるが、ちょっとした問題が発生した。

なぜコンビニの駐車スペースにアダムスキー型空飛ぶ円盤が停まっているのだろうか。

ていうか、これ本物？

行き交う人がこれに興味を示さないのもそれも気になった。おい、ビックリするだろ普通。

人々は平然とコンビニに入っていくのである。

これって変じゃないだろうか？

いやいや、ここではこれが当たり前の風景なのだ。

この商店街はアダムスキー型円盤に乗った金星人も立ち寄る人気の場所なのだ。

……ないない。絶対ない。有り得ない。

そんなSF設定な日常が繰り返されている商店街があったら、既にテレビで取り上げられているだろ。

あ。もしかして。

金髪の男女が店から出てきた。一見北欧風の金髪外国人の男女（20歳ぐらいか）がソフトクリームを舐めながら円盤に近づいていた。

そして凝視する僕と目が合った。

「ども」金星人の男性の方がきれいな日本語で挨拶してきた。

「あ、どうも」僕も思わず会釈した。「あの、これって空飛ぶ円盤ですか？」

「あ、いいえ。違います」

「そうですよね。改造車か何かですか？」

「いいえ。タイムマシンです」

「え？」

気がつくと二人は既に円盤に乗り込んでいた。

「ちょ、ちょっと待って…」

僕の声は届かず、円盤は光りに包まれてパッと消えた。

えーと。どういう事？タイムマシン？

以降このコンビニに訪れる機会があったが、二度と出会うことはなかった。

だがどうしても真実が知りたくて後日コンビニ店員に聞いたことがある。

すると、こんな回答が返って来た。

「タイムマシンなんて珍しくないですよ」

こいつ、誰だ？

（後書き）

コンビニの前にはいろんな人間がいる。ヤンキーだけでなく。宇宙人がいてもいいかね。で、店員の正体は？ってさあねえ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4411u/>

そして僕は105円を握りしめてここで立っているわけだが

2011年10月8日21時47分発行